

第4回分科会活動報告

日時：2013年10月17日（木）～18日（金）

場所：17日：久留米大学 御井キャンパス、21日：久留米市立南筑高等学校

出席者：22名（内訳：正会員13名、賛助会員他：9名）

記録者：日本大学理工学部 恵藤 浩朗（第一分科会運営委員長）

テーマ：学生の力を活かす！（協同学習）

1. 研究活動内容

【17日 午後】

(1) 会場校ご挨拶

久留米大学 大学院心理学研究科・文学部 教授 安永氏

(2) ご講演

テーマ：「活動性を高める授業作り：協同学習のすすめ」

講演者：久留米大学 大学院心理学研究科・文学部 教授 安永氏

安永先生は授業づくり研究会というものを立ち上げられて教育に関心のある方を集めて、協同による授業づくりに関する実践・研究報告や小中連携や高大連携も含め議論しており、ここへは特に参加資格はなく、教育に関心のある方で構成されているとのことでした。今回の講演ですが当然、協同学習に関する内容なのですが、具体的にグループ作りと協同学習を取り入れた講義を実践する上でのルールを実際のグループワークを通して体験的に学ぶということでした。いくつかルールや気を付けられている点を挙げてみます。



・グループは多様性を重視，多様な「個」との出会いと受容

- ・とっかかりとしての自己紹介の方法など（氏名の由来，心身の状態など）
- ・教員への注目のさせ方，時間管理の方法

- ・協同学習の基本技法について（ペア，ラウンドロビン）
- ・段階の説明（内容説明，課題明示，個人思考，集団思考，理解共有，個人定着）

といったものがあります。またその中で、協同教育により教え込み中心の講義から活動性の高い学生主体の講義になる旨や、協同による基本的信頼感や支持的風土が醸成されるなどといった協同学習の効果などについてもお話を伺いました。またそうした協同学習には、適切な課題づくりが重要で、力を合わせてぎりぎり到達できるレベルの課題を与えること、そうした課題研究が教員の仕事として大きい部分を占めるとされておりました。一見、上述のことに注意さえすれば協同学習できそうとも思いがちですが、小生が講演を伺いグループワークから感じたことは、しっかりと教員側も準備をしておかなければ、ただ単に学生へ投げっぱなしの講義となり、グループで活動しているだけで、協同とは程遠い活動になってしまうということでした。やはり教員が汗をかかないと効果ある講義などはできない

ということですね. なかなか楽は出来ません・・・.

またついアクティブラーニングを実践しやすい教室を準備, ハイテク機器を導入しこれで活動的な講義ができるのでは・・・と思われがちですが, そこにも安永先生からご指摘があり, 大切なことは機器や設備の導入ではなく, そこで何をさせるかであり, 必ずしもハイテク機器は必要とは限らないとのことでした. 何よりも学生同士が面と向かってしっかりとコミュニケーションを取りあう, これこそが重要なのだと感じた次第です.

(3) グループワーク

また協同学習の一端に触れるためのグループワーク(体験学習)を実施しました. 1分間で, ある題目に対して個人で考え3~5分間グループで話し合う課題を何問も分科会中に行いました. 先に列挙しました「段階の説明」の部分の項目について実践したということですが, ハードではありましたが結構楽しめました. 例えば「協同の精神とは」といった課題が出題され



ます. 事前に説明を受け, 且つ資料もあるとはいえ, 咄嗟に考え, グループの皆さんに話すというのは大変ですよ・・・参加者の皆様, お疲れ様でした. また協同学習を実践する上で, 徐々にならすためには, いきなり話せと言っても話し合えないので, まず誰が話すかを決めてあげる, また必要に応じて話す時間もコントロールしてあげるなど協同学習への慣れというか習熟度に応じた教員側でのコントロール方法などについても学びました. あとはこういった協同学習, 協同教育が定着すると, 生徒達は自主的に休み時間などにも協同学習をし, 自分達で課題を作りはじめる現象が出てくるとのことです・・・こうなるためにはよほど大変な努力が必要ではありますし, 教員が個で動いていても駄目で組織的に動かないといけないのではと感じました. 何にしましても本当に学びの多いご講演, グループワークでした!

【18日 午前】

(1) 授業見学「協働学習を活用した実践現場の視察—久留米市立南筑高等学校」

CS研で初の高等学校の授業見学を第一分科会では実施させていただきました. まずは本当にこういった機会を実践してみてもといった知恵をだし企画いただいた幹事, 運営委員の皆様, 安永先生, お引き受けいただいた高校の先生方, 様々なご苦勞があったかもしれませんが各所への連絡ご調整いただきました事務局の皆様感謝いたします. このような素晴らしい機会を与えていただきまして, 本当にありがとうございます.



ございます. 小生の率直な感想を申し上げますと, 高校見学は刺激が強すぎます. 特に南筑高校はとても素晴らしいので大変です. 「ずっとこの場にいたい」と思ってしまいます. それくらい小生の目からは彼らが純粋に見え, 生き活きとしており, 講義では自身で考え, とても活動的でした. 詳しくはまたあとで書かせていただきますが, まず彼らは態度も素晴

らしく、皆、我々と廊下ですれ違う際には立ち止まり、笑顔で丁寧にあいさつをして下さいます。素晴らしいですね！さて授業見学ですがのべ6講義を見学できるチャンスを頂きました。小生はそのうち3つの部屋しか回っておりませんがそこで見た内容についてご報告いたします。まずは1限の数学IAとIIを見学させていただきました。数学でどう協同を入れるのか、そこに興味を持ったのですが、課題を実施する際にある程度個人で考えさせて、解いた内容をチェックするのをペアで、更に次の課題が多少難しくなるので4人グループで・・・と、これが先生の一つの号令のもとに生徒達がずっと机と椅子を移動させてペアなりグループの配置を作るんです。この姿は見ていて感動的でした。そしてわからない学生達のグループにはわかる学生達がグループを超えて移動し教えあう。決して小生の耳に入ってくる言葉だけで判断するとわかりやすい説明とは思えない説明でも感覚の近い者同士であるせいか、分からなかった学生達も納得している様子でした。そして先生はグループの様子に目を配り、必要に応じて声掛けをするそういった講義が実践されており、これは見ごたえがありました。またもう一方の数学の講義では前回の欠席者に対して、協同学習の中で復習をさせ、更に前回の内容を学習済みの学生は自身の課題に対して個人やグループで考えられておりました。そういった臨機応変な活動もされている姿も見られました。＜臨機応変さは教員側も慣れないと難しさはあると思います。また小生が協同学習でもう一つ効果があるなど特に数学の講義で感じたのは、協同学習中に教員が部屋を見て回れる、つまり学生達の様子を、現場を掴みながら講義を実践できるという所にメリットがあるなど感じました。教員主導の講義で前に立ってはいは見過ごしてしまいがちな細かい状況を、協同学習を取り入れることで拾っていける・・・これって凄く大きいと感じましたね。

2時限目には音楽の授業に参加いたしました。音楽の授業などは久しぶりだったので先生と生徒たちの歌に癒され、いざ協同学習となると作業分担も、経験者の生徒があまりうまくキーボードを弾けない学生を自然にフォローしていたりと聴きどころ満載、見どころ満載の授業でした。本当に幸せな時間を過ごさせて頂きました。あまり研修内容とは関係ありませんが「大きな栗の木の下で」の3番まで歌える方いらっしゃいますか？3番の歌詞に「大きな夢を、大きく育てましょう」とあります。素敵な歌だったんですね！



(2) 意見交換会

授業見学後には高校の先生方(6名ほど)にパネラーのようになっていただき、安永先生と共に前に座っていただいて意見交換会を実施いたしました。意見交換会では、まず授業見学を受けての感想や質問、その後「協同学習を自分の職場でどう活かす



か？」といったことで皆様のアイデアを話していただこうと考えていたのですが、質疑が尽きず、感想と質問だけとなってしまいました。質疑では協同学習の効果や方法などについて質問があり、丁寧に各先生方にご回答いただきました。高校の先生方にはお忙しい所、多くの方にご参加いただきまして、感謝申し上げます。この取り組みが是非、日本全国で広がり、そうして育った子供達が大学に来てくれたら、我々はどれだけ幸せか、本当にそれを実感した分科会となりました。

2. まとめ

まとめとは少し異なりますが、17日夜、懇親会で安永先生の横の席に座らせていただき、本当に色々とお話をさせていただいて、とても楽しい時間を過ごさせていただきました。小生もグループワークを実施しております、ただ安永先生のように教育理論的に分析して、効果を見定めるといったことではなく、とにかくがむしゃらに良さそうだと勝手に思ったことを学生達にぶつけ、体験から小生自身で効果があったか、なかったかを見定め、改めるべきは改め、また次のグループワークにぶつけるといった作業を繰り返していたのですが、安永先生のご講演と懇親会でのお話で、あの活動は教育理論的にこうだから良かったのか、悪かったのかといった、言わば自身の活動や体験を検証できて、本当に有意義に時間を過ごさせていただきました。講演などだけでなく、改めて懇親会の意義を感じた次第です。また、何年も前から我々CS研は「協同学習」を実践していたんですね！というのも・・・

1. 全体会 (内容説明)
2. テーマを知る (課題明示)
3. 講演を伺う (個人思考) 講演を伺いながら色々なことを思いますよね！
4. 懇親会 (集団思考) 分科会の内容からくだらない事まで、リラックスして言いたい放題 (理解共有, 個人定着)

まさにこれは我々の活動そのもので、しっかり「協同学習」していたわけです。素晴らしい。またの回の活動報告は、小生が分科会後に会員の皆様にお送りしたメールをほぼそのまま掲載したもので、報告書として適切な文章とはとても言えるものではありませんが、実はこのメールを今回ご講演いただきました安永先生にもお送りしたら「外側から見て我々の活動はこう見えているんだ」ということを知れて良かったと、とても喜んでいただきました。そして是非、南筑高校にも伝えたいということで、高等学校の皆様にもこの内容が回されたとのことを伺いました。小生の思うままに書いた乱文で、とても恥ずかしい限りではありますが、我々の活動が誰かの喜びに繋がる、こんな素敵なことはないと感じた分科会でした。

以上